

コラム EUの東方拡大

● EU 15 かが最大 28 か国へ

EU（欧州連合）¹は約 50 年前に 6 か国の原加盟国²で結成された欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）を起源とし、数次にわたり拡大・発展を続けてきました。今回の第 6 次拡大では更に東方へと拡大します（図 1）。東欧諸国を中心に、キプロス、マルタ、トルコを加え総勢 13 かが加盟予定・候補国となっています。

EU への加盟には 3 つの基準（コペンハーゲン基準）³があり、これらを全て満たすことが EU 加盟の前提となります。

図 1 EU加盟国と加盟予定・候補国



表 EU加盟・予定国データ (2001年)

加盟予定・候補国	加盟スケジュール (加盟予定日)	人口 (万人)	面積 (万km ²)	GDP/人 (ユーロ)
1 エストニア	2004年5月1日	136	4.5	4,500
2 ラトヴィア	"	236	6.5	3,600
3 リトアニア	"	348	6.5	3,800
4 ポーランド	"	3,864	31.3	5,100
5 チェコ	"	1,022	7.9	6,200
6 スロヴァキア	"	538	4.9	4,200
7 ハンガリー	"	1,019	9.3	5,700
8 スロヴェニア	"	199	2.0	10,500
9 キプロス	"	76	0.9	15,100
10 マルタ	"	40	0.03	10,300
10か国計		7,478	73.9	5,402
11 ルーマニア	2007年目途	2,241	23.8	2,000
12 ブルガリア	に交渉中	792	11.1	1,900
12か国計		10,511	108.8	4,411
13 トルコ	2004年12月から加盟交渉を開始(注)	6,882	77.0	2,400
13か国合計		17,393	185.7	3,614
(参考)現在EU加盟15か国		38,082	323.9	23,180

(出所)欧州委員会欧州拡大総局 (注)基準を満たした場合

● 「大欧州」の成立

EUの東方拡大により東の境界は旧ソ連諸国と隣接し、アメリカに比肩する「大欧州」

¹ EU: 1993年発効の欧州連合条約(Treaty of European Union、通称マーストリヒト条約)で成立。

² 原加盟国: 1951年ドイツ・フランス・イタリア・ベルギー・オランダ・ルクセンブルクの6か国。その後73年(第2次拡大)イギリス・アイルランド・デンマーク、81年(第3次)ギリシャ、86年(第4次)スペイン・ポルトガル、95年(第5次)オーストリア・スウェーデン・フィンランドと拡大し、2003年現在これら15か国でEUを構成。

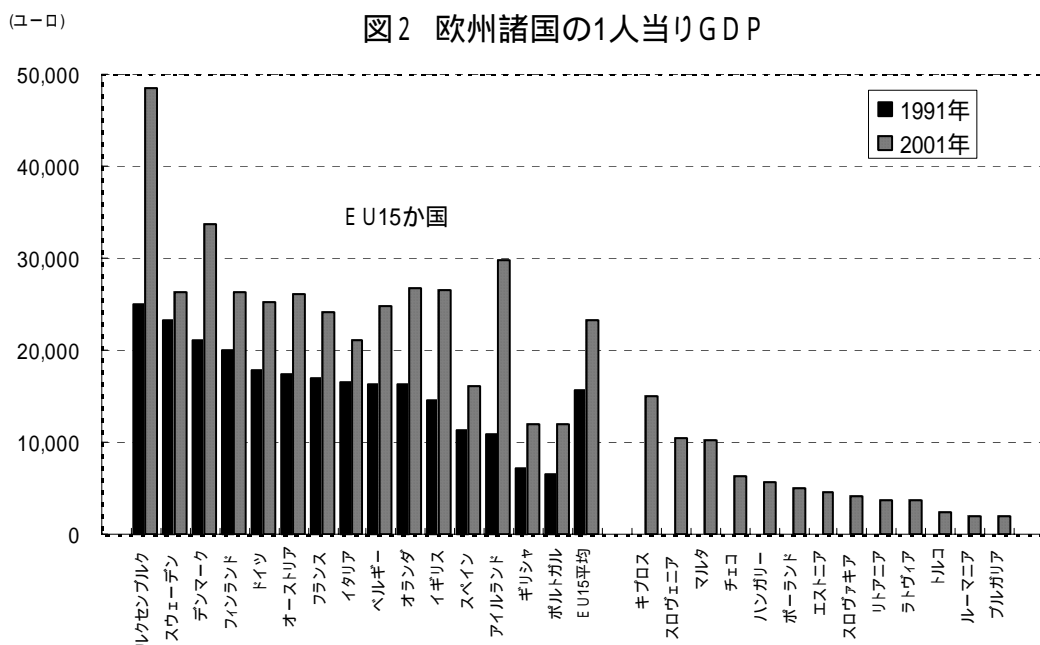
³ EU加盟の3基準: 1) 政治基準: 民主主義・法の支配・人権尊重等の諸制度を有すること、2) 経済基準: 市場経済が機能していること、3) EU法の総体の受容: EU法を基本とし、政治的・経済的に加盟国としての義務を果たす能力を有すること。

が成立します。今回の大規模な第6次拡大の状況を見ると（表）、EUの人口、領域は、2004年5月に10か国が加盟して25か国となった場合で約2割増の4億6千万人、400万km²となります。これはアメリカの人口の1.6倍、国土の41%に相当します。さらに、ルーマニア、ブルガリア、トルコまで加盟して28か国となった場合、人口、領域は現在より5割から6割増加します（アメリカの人口の2倍、国土の53%に相当）。

しかしながら、こうした人口と領域の拡大に対しGDPの規模は10か国加盟で4.6%の増大、13か国加盟でも7.1%の増大に過ぎません（2001年で計算）。1人当たりGDP（2001年）をみると、最高のルクセンブルクと最低のブルガリアでは25倍もの格差があります。

●所得格差の動向

現在のEUを構成する15か国について、1人当たり名目GDPを1991年と2001年で比較してみると、この10年間に1人当たり名目GDPはEU15か国平均で約1.5倍へと増加しました。とくに、ポルトガル、ギリシャなど1人当たり名目GDPの低かった国をみると、この間にそれぞれ1.8倍、1.7倍と平均増加倍率を上回っています。他方、ドイツ、フランス、イタリアなどでは、1.2～1.4倍程度にとどまっています。このようにEU域内において経済格差は平準化してきていることがみてとれます。今回の新規加盟においても、当初は域内の経済格差が大きいものの、長期的には次第に格差は平準化していくのではないかと期待されます。



（出所）欧州委員会 “Statistical Annex of European Economy, Autumn 2002”、欧州委員会拡大総局